2025年度　町田市立大戸小学校　学校経営計画・学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

令和7年3月31日

学校教育目標　●夢をもち、学び続ける人【課題対応能力・キャリアプランニング能力】 ●自分を大切にし、他を思いやる人【人間関係形成・社会形成能力】　●心も体も健やかな人【忍耐力、自己理解・自己管理能力】 ●目指す学校像：・①児童・生徒がわくわくしのびのびと生活できる学校　②保護者にとって児童・生徒を安心して通わせることができる学校　③地域に信頼され、ともに歩み、選ばれる学校　④教職員が生き生きと働くことができる学校　●目指す児童・生徒像：①教職員が生き生きと働くことができる学校　②自分のよさを見付け、自分の役割を果たしたり挑戦したりできる児童・生徒　③課題を見付け、粘り強く取り組み、協働して最後までやりきる児童・生徒　④自分の夢をもち、将来のことを考えることができる児童・生徒　●目指す教師像：①愛情と理性をもって、本気で子供に関わる教師　②資質向上に向け、自ら学び続ける教師　③保護者・地域から信頼される教師　④施設一体型小中一貫校の特色を生かす教師	学校経営の重点　教育活動全体を通して、児童・生徒が主体的に取り組む活動の充実を図り、「自分たちで学級・学校をつくる」という意識を醸成し、自己理解・自己管理能力を育成する。また、他者と協働する活動を通して、他を思いやり、尊重する心を醸成し、人間関係形成・社会形成能力の育成する。 重点目標の成果と課題 ＜成果＞特別活動の充実を図ったことで、児童が主体的に取り組む活動は増加している。また、スケジュール帳がより定着してきたことで、自己理解・自己管理能力の向上が見られた。 ＜課題＞自ら学び続けることができるよう、「学び方を学ぶ」「見通しをもって学ぶ」ことを身に付けさせることが大きな課題である。また、学びの多様化に向けて、学びなおしをすることができるような環境整備も課題となる。

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	ESD（持続可能な開発のための教育）、キャリア教育、環境教育の推進	●地域の特性を生かし、9年間を通した探究活動（ESD，キャリア教育、環境教育）の充実を図る。	4　地域や企業と連携した授業の実施（年間計画90%以上実施） 3　地域や企業と連携した授業の実施（年間計画80%以上実施） 2　地域や企業と連携した授業の実施（年間計画60%以上実施） 1　地域や企業と連携した授業の実施（年間計画60%未満実施）	3.3	B	A　児童・生徒アンケート　ア③「地域人材」肯定的回答率　80%以上 B　児童・生徒アンケート　ア③「地域人材」肯定的回答率　70%以上 C　児童・生徒アンケート　ア③「地域人材」肯定的回答率　55%以上 D　児童・生徒アンケート　ア③「地域人材」肯定的回答率　55%未満	83.3	B	総合的な学習の時間を中心に、地域の方々との連携を図ることができている。一方で地域団体の高齢化によりこれまでできていた活動ができなくなっていくこともある。教職員はより高い目標をもっており、より地域連携の充実の必要性を感じている。 スケジュール帳の活用は、3年目となるが、より定着してきていると思われる。 広報活動については、充実しているが、保護者だけでなく地域の方々への広報についてより検討の必要がある。	教職員の授業改革推進研修のさらなる充実と探究的な学習の充実に向けたカリキュラム・マネジメントに関する研修の充実を図る。地域人材の発掘をするために、VCや自治会等との連携強化のために学校地域協働本部の充実を図る。 キャリア教育を軸に、今後もスケジュール帳の活用の充実を図る。 広報活動については、保護者、地域ボランティアの活用の充実を図る。また、広報の方法についてもさらなる検討を行う。	今まで訪問したことのない地域にあるお店に伺ったり、近くに新しくできたお店で販売体験を行ったりと地域に積極的に声をかけ、学校外に出かけて体験する活動を増やしたり、学校に招いて教えていただいたりする教育活動を充実させる。 学校外にある学校用掲示板（2か所）を活用し、積極的に広報活動を行う。今まで管理職中心で行っていたが、教員も含めて学校全体で行っていく。	B
				4　各学級で特別活動において、「合意形成」を図る活動を年間10回以上実施 3　各学級で特別活動において、「合意形成」を図る活動を年間8回以上実施 2　各学級で特別活動において、「合意形成」を図る活動を年間5回以上実施 1　各学級で特別活動において、「合意形成」を図る活動を年間5回未満実施	3	B	A　保護者アンケート　ア⑤「スケジュール帳の活用」肯定的回答率　80%以上 B　保護者アンケート　ア⑤「スケジュール帳の活用」肯定的回答率　70%以上 C　保護者アンケート　ア⑤「スケジュール帳の活用」肯定的回答率　55%以上 D　保護者アンケート　ア⑤「スケジュール帳の活用」肯定的回答率　55%未満	80.5	B				
		家庭や地域との連携強化	●学校行事、学校公開等による教育活動の公開 ●定期的にHPを更新し、学校生活の見える化、YouTube配信Google Classroomによる適切な情報発信	4　年間250回以上のHP更新、YouTube配信40本以上 3　年間200回以上のHP更新、YouTube配信30回以上 2　年間150回以上のHP更新、YouTube配信20回以上 1　年間150回未満のHP更新、YouTube配信20回未満	3.3	B	A　保護者アンケート　ア①②「学校公開」「情報発信」肯定的回答率平均　80%以上 B　保護者アンケート　ア①②「学校公開」「情報発信」肯定的回答率平均　70%以上 C　保護者アンケート　ア①②「学校公開」「情報発信」肯定的回答率平均　55%以上 D　保護者アンケート　ア①②「学校公開」「情報発信」肯定的回答率平均　55%未満	93.5	A				
			●保教の会、保護者ボランティア、地域団体、近隣大学、幼稚園・保育園との連携強化を図り、多くの方々の協力を得て教育活動を展開する。	4　年間計画の90%以上実施、延べ200名以上の協力による教育活動の展開 3　年間計画の80%以上実施、延べ150名以上の協力による教育活動の展開 2　年間計画の70%以上実施、延べ100名以上の協力による教育活動の展開 1　年間計画の70%未満実施、延べ100名未満の協力による教育活動の展開	2.4	C	A　保護者アンケート　ア③④「地域人材」「学連協」肯定的回答率平均　80%以上 B　保護者アンケート　ア③④「地域人材」「学連協」肯定的回答率平均　70%以上 C　保護者アンケート　ア③④「地域人材」「学連協」肯定的回答率平均　55%以上 D　保護者アンケート　ア③④「地域人材」「学連協」肯定的回答率平均　55%未満	78.5	B				
確かな学力の育成	**子どもが主体的に学び、教師が導く**授業**改革**を進め、**主体的・対話的で深い学びを実現すること**で、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等**とともに学び続ける力**の育成**を図る。**	児童・生徒が主体的に学び続けることができる授業の展開	●町田市授業改革研修に基づく校内研修の実施 ●児童・生徒が主体的に活動する授業の展開（各教科で実施）	4　各教科の標準時数の30%以上で主体的な活動を導入 3　各教科の標準時数の25%以上で主体的な活動を導入 2　各教科の標準時数の15%以上で主体的な活動を導入 1　各教科の標準時数の15%未満で主体的な活動を導入	3.3	B	A　児童・生徒アンケート　イ⑥「主体的な学び」肯定的回答率　90%以上 B　児童・生徒アンケート　イ⑥「主体的な学び」肯定的回答率　70%以上 C　児童・生徒アンケート　イ⑥「主体的な学び」肯定的回答率　55%以上 D　児童・生徒アンケート　イ⑥「主体的な学び」肯定的回答率　55%未満	73.6	B	本年度本格的に授業改革についての研修を行ってきた成果が少しずつ見えてきているものの、児童が主体的に学ぶためにも、学び方を学ぶことが課題となる。 ICTの活用は、授業での活用はできているものの、家庭での活用に大きな課題がある。ICTを道具として適切に活用する方法を身に付けさせることが必要と考える。 また、家庭学習の習慣は大きな課題である。放課後の過ごし方についてもスケジュール帳の活用をより充実させる必要があり、見通しをもたせることが課題となる。	児童が主体的に学ぶことができるよう、学び方を学ぶ時間を充実させる。また、探究学習の充実のための教員研修や地域連携を強化していく。 家庭学習の充実に向けて、スケジュール帳の活用方法やフォーマットの再度検討を行う。またICTを家庭でも活用できるよう指導の充実を図る。	家庭でICT機器を活用する方法を伝えていく必要がある。そのために、どのような方法でICT機器を活用して学習していくかを明確に提示する。 連絡帳を活用し、学校での教育活動内でICT機器を活用したかどうかが視覚化され、保護者に伝えられると良い。また、学年だよりも活用し、保護者にお知らせすると良い。	B
			●ICTの効果的な活用とともに、個に応じた課題を設定し、知識・技能の習得を図る。	4　各教科の標準時数の50%以上でICTを活用した授業を実施 3　各教科の標準時数の40%以上でICTを活用した授業を実施 2　各教科の標準時数の20%以上でICTを活用した授業を実施 1　各教科の標準時数の20%未満でICTを活用した授業を実施	3.6	A	A　保護者アンケート　イ⑤「ICTの活用」肯定的回答率　80%以上 B　保護者アンケート　イ⑤「ICTの活用」肯定的回答率　70%以上 C　保護者アンケート　イ⑤「ICTの活用」肯定的回答率　55%以上 D　保護者アンケート　イ⑤「ICTの活用」肯定的回答率　55%未満	45	D				
		小中一貫校のよさを生かしたキャリア教育の実践および基礎・基本の定着と小中連携による教育の充実	●スケジュール帳等を活用し、自己管理能力の向上を図り、Qubenaの活用とともに家庭学習の定着を図る	4　学習計画、放課後の活用に関する取り組みの実施（年間20回以上） 3　学習計画、放課後の活用に関する取り組みの実施（年間15回以上） 2　学習計画、放課後の活用に関する取り組みの実施（年間5回以上） 1　学習計画、放課後の活用に関する取り組みの実施（年間5回未満）	3.3	B	A　児童・生徒、保護者アンケート　イ②「家庭学習」肯定的回答率平均　80%以上 B　児童・生徒、保護者アンケート　イ②「家庭学習」肯定的回答率平均　70%以上 C　児童・生徒、保護者アンケート　イ②「家庭学習」肯定的回答率平均　55%以上 D　児童・生徒、保護者アンケート　イ②「家庭学習」肯定的回答率平均　55%未満	45	D				
			●小中一貫教育の充実、連携授業の実施	4　小中連携授業の実施（年間延べ30時間以上） 3　小中連携授業の実施（年間延べ20時間以上） 2　小中連携授業の実施（年間延べ10時間以上） 1　小中連携授業の実施（年間延べ10時間未満）	3.3	B	A　保護者アンケート　オ①「小中一貫」肯定的回答率　80%以上 B　保護者アンケート　オ①「小中一貫」肯定的回答率70%以上 C　保護者アンケート　オ①「小中一貫」肯定的回答率　55%以上 D　保護者アンケート　オ①「小中一貫」肯定的回答率　55%未満	84.4	A				
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と共に他者を大切にする意識・意欲・態度を育てる。	他者理解・自己理解を通じた規範意識の醸成、自己肯定感の高揚	●自分たちでルールを考え、決定する活動を通して、規範意識の醸成を図り、他者を大切にする心を育成する。	4　決まりやルールについて考える活動を年間10回以上実施 3　決まりやルールについて考える活動を年間8回以上実施 2　決まりやルールについて考える活動を年間5回以上実施 1　決まりやルールについて考える活動を年間5回未満実施	3	B	A　児童・生徒アンケート　ウ②「規範意識」肯定的回答率　80%以上 B　児童・生徒アンケート　ウ②「規範意識」肯定的回答率　70%以上 C　児童・生徒アンケート　ウ②「規範意識」肯定的回答率　55%以上 D　児童・生徒アンケート　ウ②「規範意識」肯定的回答率　55%未満	92.3	A	今年度は、全体として落ち着いた生活を送っているように思われる。特別活動で「合意形成」の機会を充実させてきた成果が見られた。 また、いじめ・いやがらせ防止については、日頃から児童に考えさせる機会や言葉を大切にすることを伝えてきた結果、校内での言葉に対する意識が少しずつ向上してきている。	児童が安心・安全に生活することができるよう「言葉の大切さ」についての指導を継続していく。 また、特別活動における「合意形成」をさらに充実させ、自らの学級を自ら創る意識を向上させる。 いじめ・いやがらせ防止については、引き続き、特別の教科道徳、特別活動だけでなく、常に意識できるよう指導するとともに児童が相互に啓発していくことができるよう委員会活動等を充実させる。また、これらの取組を保護者・地域に積極的に発信していく。	小学生時代に自己肯定感が高いということは今後の自信につながるので大切にしていく。 以前に比べ、児童全体の自己肯定感が高まってきていると感じる。教員にこのことを周知し、学校全体で今後もこの雰囲気を醸成していけるようにする。 学校全体が落ち着いているからこそ、児童の良い面等の連絡を連絡帳や電話連絡でできると良い。	A
			●自分事として「考える道徳」の授業を実践し、対話や振り返りの充実を図り、道徳的実践力を育てる。	4　80%以上の授業で実施 3　70%以上の授業で実施 2　55%以上の授業で実施 1　55%未満の授業で実施	3.4	B	A　児童・生徒アンケート　ウ⑥「考える道徳」肯定的回答率　80%以上 B　児童・生徒アンケート　ウ⑥「考える道徳」肯定的回答率　70%以上 C　児童・生徒アンケート　ウ⑥「考える道徳」肯定的回答率　55%以上 D　児童・生徒アンケート　ウ⑥「考える道徳」肯定的回答率　55%未満	91.2	A				
		人権教育、道徳教育、いじめ・いやがらせ防止教育推進	●いじめ・いやがらせの未然防止のために、いじめ防止研修、人権教育、特別支援に関する研修を各年3回以上実施し、いじめ・いやがらせの見逃しゼロとする。	4　すべてのいじめ・いやがらせについて、指導、保護者との情報共有の実施 3　95%以上のいじめ・いやがらせについて、指導、保護者との情報共有の実施 2　90%以上のいじめ・いやがらせについて、指導、保護者との情報共有の実施 1　90%以上のいじめ・いやがらせについて、指導、保護者との情報共有の実施	3.4	B	A　児童・生徒アンケート　ウ①「いじめ防止・人権」肯定的回答率　80%以上 B　児童・生徒アンケート　ウ①「いじめ防止・人権」肯定的回答率　70%以上 C　児童・生徒アンケート　ウ①「いじめ防止・人権」肯定的回答率　55%以上 D　児童・生徒アンケート　ウ①「いじめ防止・人権」肯定的回答率　55%未満	82.4	A				
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する.	運動の習慣化と基本的生活習慣の定着を図り、生涯にわたり健康的に生活できる力を育む。	●体力テストの結果分析を活用し、体育科（小学校）、保健体育科（中学校）で連携した授業の推進し、運動を好きになる児童を増やし、運動の日常化を図る。	4　年間15時間以上の体育科連携授業の実施 3　年間12時間以上の体育科連携授業の実施 2　年間9時間以上の体育科連携授業の実施 1　年間9時間未満の体育科連携授業の実施	3.6	A	A　保護者アンケート　エ①「運動習慣」肯定的評価　80%以上 B　保護者アンケート　エ①「運動習慣」肯定的評価　70%以上 C　保護者アンケート　エ①「運動習慣」肯定的評価　55%以上 D　保護者アンケート　エ①「運動習慣」肯定的評価　55%未満	78	B	3年生以上は、中学校教員による体育の授業を実施した。これにより、身体を動かすことの楽しさや大切さをより感じる児童がふえたようである。また、休み時間の活用した、「なわとび」「持久走」等の取組の継続の成果も見られた。 食生活、基本的生活習慣については、小学生のうちにより高い意識の啓発が必要である。家庭との連携を強化していくことが必要である。 校内のけがの発生状況等を見るとより安全意識の向上を図る取組が必要である。	次年度も中学校の教員による体育の指導を継続していく。 また、食生活・基本的生活習慣獲得に向けて、保護者・地域と連携をより高めるために学校保健委員会の充実を図る。 校内外での事故やけが防止に向けて、児童の意識向上を図るため、委員会活動等の充実させ、児童が相互に声掛けし合える環境を作る。	今年度交通事故が2件と多かった。交通安全についての知識習得と意識向上の啓発を今後も行っていく。 頭を打つけがが多かった。体のイメージ・身のこなし・視野の広さに課題を感じている。コオーディネーショントレーニング等を効果的に活用し、児童の体力向上に努める。また中学校の体育教員が小学生に授業を行うことは非常に効果的であった。体育の授業での取組を日頃の身のこなしにつなげられると良い。	A
		校内における安心・安全な生活環境の整備と危機管理体制の確立を図り、児童が自他の命や心身を守る力を育成する。	交通事故、不審者対応、災害時避難等の安全意識やネットマナーの育成をするため、ねらいを明確にした安全指導等を計画的に実施する。	4　年間計画の90%以上を明確なねらいをもって実施（月1回以上） 3　年間計画の80%以上を明確なねらいをもって実施（2か月に1回以上） 2　年間計画の70%以上を明確なねらいをもって実施（学期に1回以上） 1　年間計画の70%未満を明確なねらいをもって実施（年2回程度）	3.1	B	A　児童・生徒アンケート「相談」「安全意識」について肯定的評価　80%以上 B　児童・生徒アンケート「相談」「安全意識」について肯定的評価　70%以上 C　児童・生徒アンケート「相談」「安全意識」について肯定的評価　55%以上 D　児童・生徒アンケート「相談」「安全意識」について肯定的評価　55%未満	91.2	A				
			施設・設備の確実な安全点検の実施、迅速な修繕に加え、施設・設備を大切に扱う心を醸成し、生徒が安心して生活できる環境を整える。	4　点検後迅速な対応（2週間以内　90%以上対応） 3　点検後迅速な対応（2週間以内　80%以上対応） 2　点検後迅速な対応（2週間以内　70%以上対応） 1　点検後迅速な対応（2週間以内　対応70%未満）	3.6	A	A　保護者アンケート　カ①「校内整備」肯定的評価　90%以上 B　保護者アンケート　カ①「校内整備」肯定的評価　80%以上 C　保護者アンケート　カ①「校内整備」肯定的評価　70%以上 D　保護者アンケート　カ①「校内整備」肯定的評価　70%未満	91	A				
その他													